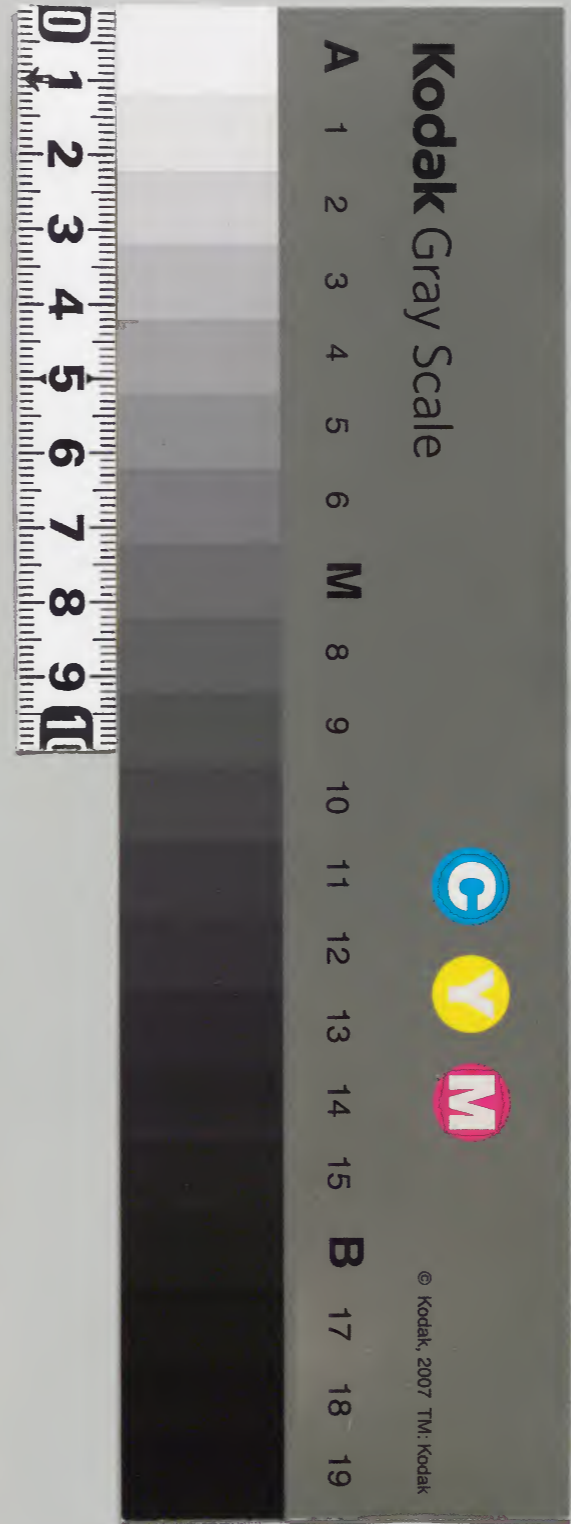
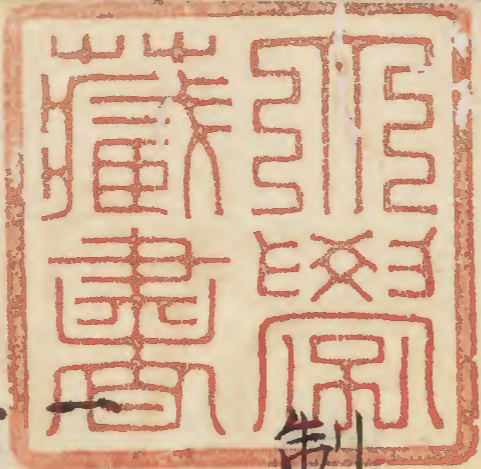


制度通九

藩外書冊

庫文閣内	
八二	一五和
内閣文庫	
番號	和 15332
冊數	13 (9)
函號	182 532





制度通卷之九目錄

田法步畝頃之事

并本朝町段之事

一 行程里數之事

丁壯老之事

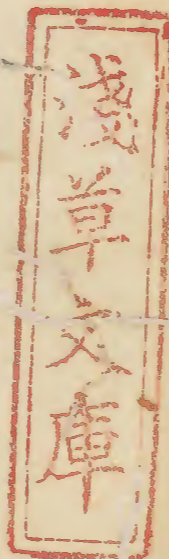
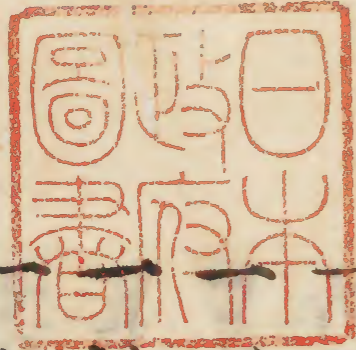
一 徭除之事

并鋤符之事

一 旌表之事

一 常平倉之事

并社倉本朝化倉廨田之事



伊藤長胤 輯

Handwritten text at the top of the right page, including a large red seal impression.

一 帝平會之律

一 蘇未之律

一 野部之律

一 下地之律

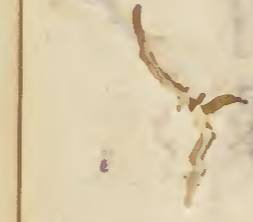
一 田部之律

一 刑部之律

一 兵部之律

一 工部之律

一 禮部之律



制度通卷之九

伊藤長胤輯

△田法步畝頃之事 並本朝町段之事

○王制云古者以周尺八尺為步今以周尺六尺四寸為步云 古一方一里ヲ井ノ字ノコトヲ溝エナリ其間一間ニ百畝アリ孟子ニ方里而井ニ九百畝ト云是ナリ漢書ノ志ニ云古者建步立畝六尺為步 步百為畝ノ百為丈ト然レ一步ト云云

ハ六尺四方ノ場ナリ大塚今ノ一坪ホトノ
所ナリ一畝ト云モノハ歩ヲ百アワセメ
モノナレバ今ノ百坪ホトノ場也二丈トイフ
モノハ畝ヲ百アワセメ今ノ一
坪ホトノ所ナリ是古大時百姓一人ノ受
取マツテ孟子ニ耕者一夫百畝ト云是
ナリ然レモ古ノ尺者今ノ尺ヨリ其短キ
ヲヤレハ百畝ノ地トイフモノハ今ノ一
ノ積ニハ百ヲサレナルヘシ

己秦漢已来ノ法畝數ノ多少詳ナラス通
典云唐ノ玄宗開元二十五年ニ令アリ
テ田廣一步長二百四十歩為畝百畝
為項唐六典ニ云凡天下之田五尺為歩
二百有四十歩為畝百為頃ト杜佑ヲモ
ヘラケル秦漢以降即二百四十歩為畝
非独始於國家蓋具今文耳ト云リ古ハ
六尺ヲ歩ト云秦漢ノカク唐ノ時分マ
テハ五尺ヲ歩トス開元通寶ノ錢ヲ八分

ニツモル時ハ唐人時ハ一歩ハ今ノ六尺一間
ニアラセテハ之ニテ大様唐人時ノ一畝ハ
今ノ二百坪一頃ハ今ノ二万坪ニテ相準ス
尺ノ長短ニテ出入アルハ之ニテハ

歩 五尺為
畝 方一步者二百四十
頃 方一步者二萬四千

○事物紀原ニ顧野王之秦孝公以二百三

十步為畝今又二百四十步也青齊諸郡ハ
又以三百六十步為一大畝云ト此說通典ニ
載ル説ト同カラス野王ハ梁ノ時ノ人考ト
コト有(之併セ見ル)

○明海鹽董穀滄里雜存云畝法古今不
同漢書鹽鉄議曰古以百步為畝漢高
帝以二百四十步為畝今時俗語云横十
五堅十六一畝田穩々足ト蓋以十五乘
十六正是二百四十若古之百步以今

弓準之則其一畝當今四分強耳云々
古之一丈百畝當今四十一畝耳云々
宋謝察微筭經云一畝之畧ヲ舉

畝 横一步豎二百四十步即潤一丈長六十
丈也若以自方五尺計之積六千尺也
步方五尺也

里 三百六十步

頃 今以百畝為頃二畝者乃積稅之總也二十四
步為一分十分為畝二之以下曰釐毫絲忽

○本角 一畝分為四角
每角六十步也

○青藤山人路史云二百五十步古田一畝註

二見通列堯八書上此說又同カラス然

トモ後世ハ二百四十步ヲ畝トスルコト定說

本也

○畝頃ノ制唐ヨリ以來改變アルコト見アタ
ラス宋ノ神宗ノ時二千步四方ヲ一方ト
セラルコトアリ暫アリテ又止ラル横渠古
井田ノ法ヲ試シトシテ買田一方ト云コト

予り近思録并ニ孟子集註ニモ是ヲ引
ケリ讀者タニ田ヲ一所ニ買ト分リ思フ
ルマツリナリ方十歩ノ場ヲ買求メント云
コトナリ文献通考ニツマヒラカナリ

本朝之制

凡田長三十歩廣十二歩爲改十町爲町
日本紀云孝徳天皇三年春班田既訖凡
田長三十歩爲改十改爲町
○本朝ノ古ハ歩數ハ唐ニ準シテ五尺ヲ一

十町ニ町段訖

坪トス一段ハ三百六十坪ナリ一町ハ十段ニテ
三千六百坪也町ハ唐ノ頃ニ準シ段ハ唐ノ
畝ニ準シテ廣狭アリ今ハ三千坪ヲ町トシ
三百坪ヲ段トス又一段ヲワリテ一トセト云
コトイツレノ比ヨリハシメルコトヲシラス
○古ハ五尺ヲ一歩トシ今ハ六尺ヲ一歩トスル
異同アリ然レモ古土地ニテ五フハト云即
今ノ六尺ナリ惣別古ハ度量衡トモニ大
小身ニ様アリテ田地米穀ノハナルハ大

身長八ヲ用ニ度量ノ下ニ論スル通ニテ
土地ノ廣ヲツモルニ六一尺二寸ノ尺ヲ用テ
一尺トス是ヲ大尺ト云五尺ノ内ニテ二寸ツ
ノフ六一歩ニテハ六尺ナリ然レ六古五尺
為歩ト云モ今ニテハ六尺一間ナリ今ノ
文ヲ詳ニス(云々)
歩 五尺為ノ準今六尺
段 方一步者三百六十
町 方一步者三千六百

○唐ノ歩畝頃 本朝ノ歩段町ニ準ス田
地ニ段ト云フト漢土ノワモリ見アタラス然
レ凡一シキリヲ段ト云フトハ後世ニテモ多見
○タリ田地ニ町ト云フト遂ニ見アタラス左
傳魯哀公二十五年ニ云リ町原防ト杜氏
集解ニ云 隄防間地不得方正如井田則
為小頃町ト賈逵曰原防之地九丈為
町三町而當一井也トコノ説ヨリ本ツク
祈ナキニヨリテ先儒モ取用ラレス然レ凡

町ヲ以テ田地ヲハカルコト是ニアラフ
本朝町段ノ名モ是ヨリ出ツルナルニ字彙
ニ町ノ字ヲ解シテ云田区畔埒トアリ田
地ノシキリヲ云又段ノ字ト相通用スト
見ヘシキリ
○拾苾抄云凡田以方六尺為一步廿六步為
一畝頭註ニ三百六十六步為一畝積七十
二步為十代百四十步為廿代二百六十步
為可代二百八十步為四十代五十代為一

段式云代ハ頭也云ハ一步一段ノモリ拾
苾ニノスル所令ノ文トコトナルヲヤシ其内
令ニハ五尺四方ヲ步ト云拾苾ニハ六尺ヲ
步トスルノ別アル凡令ハ長尺ヲ以テ積リ
タルモノニテ是又カワレヌナシ但代ト云リ
式ニハ見ユレ凡令ニハアヲハス五十代ヲ一
段トスルコトキハ十代ハ令ノニセハカリニ當ル
古ノコトハ二十代田ヲソシロメト訓ス即
コノコト也又段ノ字今ハ及ノ字ヲ用ユ是

ハ段ノ字草書及ニ作ルニ訛傳シテカ
クノコトシ

○拾芥又云一段為一町頭十段為一町積
六町為一里其六里為一條又云條起從北
北行於南限六里起西行於東限六
町始良終乾但已上可右外リケ令見ハス
其後ノ制法ト見ハタリ是ハ今ノ其六町
一里四方ノ所ヲ西ヨリカリハシメテ一里二
里ト云每一里ニ方一町ヲモノ其六箇アリ

シカレハハ一町ニ長サ其六町ナリ又コレヲ
北ヨリカリハ出シテ一條ニ條ト云每一條
ニ又方一町ノモノ其六ケアリ其幅一町ニ
長サ其六町ナリ里ト云モ條ト云モ同キコ
トニテタテトヨコトヨリ積ルニテノ替リ
ナリ古田地ヲ今ノ定法ト見タリ今ニ
至リテ郷村ノ名ニ東條西條等ノ名
アリ又古テ書ニ其條ト云フ多クナリ
古通シ行ハレタルコトニテ中古以來其

法廢絶スト見ヘタリ拾芥又云脩里之
起可階圖例ト是ニテシル

[附考] 敵頃ノ制唐ヨリ以来改変アルヲ見
アタラス宋ノ神宗ノ時ニ十步四方ヲ一
方トセラル、フアリ暫アツテ又アレタル
横渠古井田ノ法ヲ試ミトシテ買田
一ノ方ト云フアリ近思錄並ニ孟子集註
ニモ是ヲ引ケリ讀者々、田ヲ一方ニ買
フトハカリ意得レク不アリ也方十步

ノ場ヲ買求ント云フナリ文献通考ノ
文ヲ左ニアラフス

買田ノ法古ノ制也唐ノ時十方ニ買
田一ノ方ト云フアリ近思錄並ニ孟子集註
ニモ是ヲ引ケリ讀者々、田ヲ一方ニ買
フトハカリ意得レク不アリ也方十步
ノ場ヲ買求ント云フナリ文献通考ノ
文ヲ左ニアラフス

法皇御尊... 見... 拾芥又...
起可... 例... 是...
... 頃... 唐... 以来...
... 神... 時... 十...
... 每... 是...
... 試... 下...
... 思... 並...
... 田... 一...
... 又... 面...
...

△行程里數之事

○里數ノコト古ヨリ考レテ書經ノ益稷
篇ニ云 躬成五服至于五千十五千里ノ
ナリ又禹貢ニ五百里ハ甸服百里賦納總
等ノコトアリ一里ト云ハ何ホト云テ詳
ニセス其後孟子ニ井田ノコトヲ述テ方
里而井井九百畝トアリ是里數ノヨ
リテヲ云ル所ナリ井田ハ百畝ツノモノ
九ツニシテ一里四方ナリシカレハ一面ノ長サ

三百歩ノコヨリ 行程ノ一里ト云エテ積リ
出ルト見(タリ)然レハ古ハ尺モ

○里數ノ事多ク書ニアラズ公羊傳ノ
疏ニ云古六尺為步三百歩為里字彙ニ
路程以三百六十歩為一里ト云リ百ハ三百
歩ノ長サヲ一里ト云云後世則三百六十歩ノ
長サヲ一里ト云ト見(タリ)然レハ古ハ尺モ
短カク又歩數カクノコトク少キト云ハ古ノ
ノ十里ト云ハ後世ノ十里ヨリハ短キヲ知

○禹ノ時中國ノ廣サヲ五千里ト云テ後
世ノ五千里ヨリ短キヲ云ル(シ)

○荀子之吉行五十奔喪百里漢書陳湯
傳云矢輕行五十里重行三十里又賈捐之
傳吉行五十里師行二十里然レハ六國秦漢
ノ時分ハ一日踏早キハ百里遲キハ五十里
三十里ト見(タリ)

○日本人人唐ハ六町一里ト云ハ十キヲナリ唐
ハ上代ヨリ歩ヲ積テ里ト云スソノ間ニ

小名ナシ是ハ本朝ノ古里ヲ以テ云又
ハ三百六十歩ト云ヨリテ六十歩ヲ一町ト
覺テカク云ヘリ

本朝之制 凡度地五尺為歩三百歩為
里今

本朝歩里ノ法モ又中國ノ法ニ準ス
公羊傳ノ疏ニノルトコロノ長短少
カハリアルケレモ大様相準ス今ノ
六十間ヲ一町ト云積リテ六畧古ハ

本朝ノ一里ト云ハ今ノ五町ハカリト知

○公式令云凡行程馬日七十里歩五十里車三
十里今ハ三十六町ヲ一里トス又ハ五十町ヲ
一里トスイツト比ヨリト云フヲ詳ニセズ

**本朝モ古中國ノ法ニテ一里ノ内ニ小名ナ
シ何里何町ト云フモ一里ノ内ニ六町為
一里ト云フアリ是ハ上ニ論スル通りニテ
田地ノツモ一方一町ノ田ヲ三十六ナラハ
タルヲ云路程ノヤトニアラフス三十六町一**

里ト道ノリツモリハ是等ヨリ轉スル
コトナルヘシ惣別ニ由ルニテモ
本朝ニ里ト云フニ様ニテ今ヨリ以テ五ノ戸
為一里ト云ハ土地ノ廣狹カマハス家數ヲ
以テ一在所ヲ五ル各ナリ雜令ニ凡三百歩為
一里ト云ハ路程ノ法ナリ三十六町為一里ト云
ハ田地ノ積リナリ其口ケ同カラス
○三代ノ時ハ此ニツツモノ一ノ歸ス方里而井
ト一里四方ノ所ヲ一組ノ在所トシテハ家

同井是ヲ井田ト云然レハ道ノリ家數田
地ツモリ皆一同ナリ後世ニ至テ其詞轉
シテ其積モリ同カラス
○尺度ノリハ三代ヨリ以來唐宋マテ代々異
同アルヲ諸書ニ詳ナリ里數ノ一ハ其說ナ
シ里數ハ其モト尺ヨリ起ル尺度周尺ハ明
ノ寶鈔尺ノ六十四分ニアシハ里數モリ
レニ準シテ短キナルニ然レハ周ノ時邦畿千里
後世人六百四十餘里ハナリ百里ノ地ト云ハ

後世人六十四里分り書經ノ弼服五千ト云
ハ五千里ノリナリ後世ノ三千二百里計テ
タル器物ノ尺度田地ノ廣狹ハ少クノ事スヘ
世ニ改革アルニ天下ノ里數ハ華夷一同
廣大ナルス一オノミ改革ナリ古来通用シテ
大様ニシルモケルニマフ孟子ニ海内之地方千里
者九ト云ハ千里四方ナルモノ九ツアルト云ナ
リコレヲ四角ニテホシタルハ三千里四方地ナ
リ後世又中國ノ廣サヲ幅負萬里ト云ハ至

極ノ行ツマリマテテ大概ニ筭ニテ云ナルヘシ
且秦漢以來東南ヨリ西南ニテ大分中國
ノ地ニ入りテ弘カリタル時ニ云ナルヘシ

大明官制地理ノ書ヲ考レハ天下ノ國ノ南
京北京ハノ里數ヲ詳ニ書セリ其内陝西
ノ長安縣ヨリ北京ノ都ニテ二千六百五十
里トアリ長安ハ秦漢ノ故都中國ノ西北
胡國ニ隣ス北京ハ古ノ燕ノ國東北ノ少シ
ニハ女直ニ接ス然ル北ニテハ東西ノ長三

千里ニミタス又東南ニテ寧波府トスハ古
イハユル明列ノ津日本ヨリ渡海ノ入口
安倍ノ仲滿呂カニ笠山ノ詠歌セシ處ナ
リ是ヨリ北京ニテ四千六百四十里トアリ然レ
ハ東ニテハ南北ノ長サ五千里ニ滿タスサテ
南京北京ノ間三千四百有餘里アリ又蜀
ノ成府ヨリハ北京ニテ一萬七百里トアリ
コレハ西南ヨリ東北ニ飛ノ梁ノコトクニ角
千カイニユキタルモノナリ蜀ハ西南ニ出ハリ

名國ナレバ北京ノノリサモアルニ然レハ
中國ノ幅員オシマワシテ五千里餘ノ内
外トシルヘシ書經ニ五千里トアル是ニテシ
ルニ大抵吳越閩廣ノ地春秋以來中國
ニ入り蜀ハ戰國ノ時分ヨリノ通路アリ三代ノ
時ハ何レモ中國ノ地ニアラス然レハソノカミ
五千里トアルモトハナリナリ
○明朝里數ノ事日本タツモリニ合セテハ十分
ノ一トキユニ明ノ版圖光武新書ニ割野

管説あり劉野管ハ野陳ヲトルアリ
其中二里數ノツモリアリ曰程限該二里
二十七步餘為一刻行數二十里二百七十
餘行為十刻晝夜該七萬四千七百餘步
程限二百零八里有餘是為百刻ト云
本書ニ緊慢行數ナリ是ヨリ六中國ノ
人ハ緊行慢行アリナラシテ晝夜百刻ニ
七萬四千七百アリシホトニテ二百八里餘ヲ
行ナリ唐人ノ歩ミ日本ト少ク不同ト

アルケレ尾大ニ相違ハアルモ日本ニテハ大
様三十六町一里ヲ一日二十里ホト行然ルニ
一晝一夜ニ二百八里ヲ行テ常ノ人リトス
六今世中國ノ十里ハ日本ノ一里ホトニル
○朝鮮ノ海東諸國記凡例ニ日本ノ里數ヲ
記シテ云其一里準我國ノ十里トアリ是ハ
西海ノ海路五十町一里ニテツモリタルマ然レ
氏是モ大様證トス(之以書ハ明ノ嘉靖ノ

比其國人宰臣甲叔舟ト云者作りテ二卷
あり日本琉球ノ事ヲ詳ニアラスハセリ又朝
鮮國ヨリ其國ノ慶尚道東萊縣富山
浦ヨリ對列（ワタル）ノ四十八里ヲレヨリ
改クノ國ヲ歷テ琉球ノ國都（着）ス都
討五百四十三里注云以我國里數討則
五千四百二十里ト云、コト又倭按スレ朝
鮮ノ里數モ中國ニ準スレ云何トマラシ
中國ヨリノイヨク短キマリニオボク本

○丁壯老之事

○成丁トハ男子成人シテ公儀ノ夫役ニ出
ルヲナリ丁ヲヨホト訓ス三代ノ時成丁
ノ年數經書ニ見エス漢ノ律ニ年二十三
傳之ト如淳カ漢書ノ註之内ニ見ハルソノ
カニ天下ノ民年二十三ニ成トハ帳ニツケテ
公義ノ夫役ニツカハル其後年五十六ニ
十ハ役ヲユリスナリ景帝ノ時ニ至リテ
天下ノ民年二十ニ成テ始テ傳スナリ

シカレハ男子ニ生ノ内役ヲツトムルヲ二十六年
ナリ其後三國マテノ法コレニ準ス

○晋ノ時男女年十六ヨリ六十ニテノ内ヲ正丁
トス十五ヨリ二十三マテ六十ヨリ六十五マテ
ヲ次丁トス十二ヨリ以下十六ヨリ以上ヲ老
トトステ役ヲ免スナリ其後宋齊已下マ
テノ法コレニ準ス

○北魏ノ時ノ法詳ナラス北齊ノ武成帝ノ
時ニ始テ丁中老少ノ法ヲ立十八已上六

十五以下ヲ丁トス十六已上十七已下ヲ
中トス六十以上ヲ老トス十五以下ヲ小トス隋
唐以來丁中老少ノ法モコレヲハシメテ
損益ス

○隋ノ文帝ノ時ニ新令シテ凡ソカキテ男女三
歳以下為黄十歳以下為小十七歳以下
為中十八歳以上為丁課役ニ從フ六十
六ヲ老トシテ役ヲユリス其後或ハ二十ヲ
為丁二十ニヲ為丁是ハ天下ヲ治リテ

人数ヲホキニヨリ元来父ケテ役シコト
 ○唐ノ制モ隋ノ法ニヨリ其年数老ニ異同アリ
 リ是ハ隋ノ時ヨリ人数殊多キニヨリテガリ
 久役ニ使フテ早ク死スルハ隋ノ時六十八ヨ
 リ六十六マテ始終四十八年ノ内ツカステ唐
 ノ時三六二十一ヨリ六十マテノ内四十年ツトム
 ルナリ其後玄宗ノ時六二十三以上下ヲナ
 シ代宗ノ時六二十五ヲ下トシ五十五ヲ老
 トシテ百姓ヲ宥免セラル

唐成丁五等圖

黄 三歳以下
 小 十五以下
 中 二十以下
 丁 二十二以上
 老 六十為老

本朝之制

凡男女三歳以下為黄十六以下
 為小二十以下為中其男二十一為丁六十一
 為老六十為老無丈夫者為寡妻妾

○今ニ載ルル上ノ如キトシ唐ノ法ニ準ニテ之
差別アリ

本朝成丁六等圖

黄	二歳以上
小	十六以上
中	二十以下
丁	二十二以上
老	六十以上
春	六十以上

○稱徳天皇天平宝字元年詔曰昔者先
帝亦有此意猶未施行自今以後宜以十八為中
男二十二以上成正丁此時及元成丁年數
マ優免セテテカク今トシテ

○宋朝成丁ノコト二十ヨリ六十ニ至テ下ノ大廣
治平畧ニ云諸別歳奏戸帳具載其下口男
夫二十為丁六十為老云又續通考ノ考レ
八四年ニ年二十以上五十以下皆籍之トアリ

○元明ノ時丁役人事前代人法ニ因テ損益アリ

○會典 民壯人下 弘治二年令選取民壯
須年二十以上五十以下精壯之人ト云々

○明朝成下 正事廣治平畧ニ詳ナリ會典トハ
少々異同ナリ時代ニヨルナルヘシト云々
有二等曰成下曰不成下民始生登其名于
籍曰不下年十六曰成下下成而役六十而免
婦女若不成下不役以役言則有三等以
戸計曰里甲以下計曰均徭上命非時徭
○曰雜泛府州縣驗冊下口多寡事產厚薄

以均適其力毋放富差貧民年七十而上許
一子侍養免雜泛役而品官免役視職秩
為差官故仍免徭三年云々

古今各下ナリ何レモ前ニ人々通下
事ヨリテ是ノ後又ナリ同礼是
事ニ漢書ニ是ノ後中ニ後世又為事初免
上之何レモ同ナリ又王制ニ不任
事不從政ト云々又カ人下ナリ其
此記ノ人々ハ其ノ身ニ人役免云々

會典民壯人下之私治三年分會地而民壯
以年二十以上五十以下精壯之人以
明朝成下不事廣治平畧許十會地
少者異同下時感
有二等曰成下曰不成下民地坐食其
籍曰不十年十六曰成下不成而役六十而
免其地
二子
公

△復除並蠲符之事
○古(民)夫役(使)之歲(一)日(一)ス(キ)其
後代(々)ニ(カ)ワ(ケ)テ(リ)又(田)地(ハ)年(貢)ノ(取)ル(ト)
古(今)各(コ)ト(ナ)リ(何)レ(モ)前(ニ)ア(ラ)ス(通)ナ(リ)
事(ニ)ヨ(リ)テ(是)ヲ(免)ス(ト)ス(ル)周(禮)ニ(是)ヲ(舍)
ト(云)漢(書)ニ(是)ヲ(復)ト(云)後(世)ニ(又)蠲(ト)云(免)
ト(云)何(レ)モ(同)キ(ナ)リ(又)王(制)ニ(不)征(於)鄉
ト(云)不(從)政(ト)云(モ)又(コ)ノ(ナ)リ(其)内(周)禮
禮(記)ニ(人)不(忍)ハ(其)身(人)夫(役)ヲ(免)ス(ハ)カ(リ)也

漢以來ハ時ニヨリテ又年貢ヲ荒スルアリ
文献通考ニ復除内ラズスハ徐氏曰漢之
有復除猶周官之有施舍也
○漢ノ高祖二年ニ蜀漢ノ民給軍事務者
復^勿租稅ニ歳十顔師古ノ註云復者除其
賦役也コレヨリ後前漢ノ世復除也
多クアラハル或ハ軍功ニヨリ或ハ三老或孝
弟力田人モノ或ハ明經或ハ博士弟子或ハ
功臣ノ子孫ニ至ルニテ或ハ二歳或ハ三歳

ノ品アリテ復カラルル漢史ニ詳ナリ
ツレモ善政ナリ
○唐ノ制モ又漢ノ法ヲトク天子ノ御外
族並ニ貴人學者孝子節婦老病流民
蕃人等ニハイツレモ給復年數ノ次第アリ
リソノ事イマツカハハ奉ス
○又復除ノ時行上ヨリ證文ヲ給フ是ヲ獨
符ト云六典ニ見タリ通考曰玄宗初五
求治獨徭役者給獨符以流外及九品

京官為謁使歲再遣之

本朝之制有免租有免租調有課役俱免

○有復一年二年三年四年五年七年終身

○免租ノ一國史所々ニ見ル其中心ニ

仁徳天皇ノ四年ニ高臺ニ登リテ炊煙ハ疎

ナルヲ見テ百姓ハ窮乏ヲ因ニ玉ヒ三月己酉

諸國ニ詔シテ三年課役ヲ元ス其後百姓

富貴ニシテ炊煙モマシケク十年ニ及テ始

テ課役ヲ科シテ室室ヲ構造ラシム百姓

杖老携幼不問日夜シテ成就ス國史ニ是

ヲシルシテ聖帝ト稱ス然レハ始終七年ノ

役ヲユルシタマフト見(タリ)然レハ是ハ希代人

曠典ニテ法令ニラフス免租免課ノコトツ

ヒウカニ賦役令ニ見(タリ)然レハ其事煩

多ニシテ且別ヲ見カメシ上ニ奉ルルヒコノ

次第ハ令ニ載セラシモ令人文ヲ考テ其

名目ヲ立ツルナリ

○令云凡田有水旱災霜不熟之處國司檢

○令云凡田有水旱災霜不熟之處國司檢

○實具錄申官十分損五以上免租損七分以下
免租調損八分以上課役俱免注云課者調
及副物田租之類也役者庸及雜徭之類云
此ワケハソノカビニノ税法ハ租庸調ト三品ニテ
田アリハ租アリクア六調アリ身ハ庸アリ租
調トテ合セテ六課ト云庸ヲ役ト云式ニノスル三等
一免租ト云ハ田地ノ年貢ハカリテ免サレナリ
二免租調ト云ハ田租トナリ調トテ免サレナリ
コレヲ免課ト云然レトモ庸ハツノマツトムナリ
三課役俱ニ免ト云ハ庸ヲモユルサレナリ以上

復一年ヨリ十年マテノ差アリ又終身ノ復ア
リ復トハ課役ヲユルナリナリ外國ニ没落シ
テ歸ル者又唐國ニテ外蕃ニ使ヒテ還ルモノ
郷ヲ移スモノ皆復ヲ賜フ年數アリ又三位
以上ノ親族等並ニ免課役トシテ終身ノ免
役ト見ヘタリ自餘ツヒテカニ舉クルニイ
マラス令條ヲ考フニ
○令云凡應免課役者皆待賜符至然後免
焉注謂賜除課役之符也ト賜ハ役ヲユルナリ

上ニミタリ今京師諸役免除ノ符アリ此類ナ

○リタノ其ノ時ハ...

○宋ノ世ニイタリテ復除ノコトワキテカワルテ見ヘ

ス仁宗ノ時ハ品以下死スルモノ子孫モトハ役

徧クニ同シコノ時ニソノ家ノ役ヲ獨カシ...

○神宗熙寧中ニ宰相王安石ノハカラテ...

リテ差役ノ法ヲ改テ雇役トス又免役錢

ト云モノヲ百姓ノ手前ヨリ取ラルコトナリ是

コレヨリナキニハ百姓ノ公義役ニナリタルモノ

ニ課役トシテ...

其身自身ニ國々ヨリ役ヲ勤ムルナリ故ニ

是ヲ差役ト云然レニ別縣ノ官差役ノワ

リ付不均ニヨリテハ百姓難義ニ及ビ或ハ

身代ヲアツテ者アリ神宗即位ノ始メ

ニ諸路ノ轉運使ニ詔シテソノ利害ヲ申

上ル様ニ命セシム熙寧二年條例司申ス

衆論ヲ考合スルニ民スシテ錢ヲ索シテ雇

役スルカ便ナラシト是ニツイテハ差役ノ法

ハ...

...

ユカスシテ錢ニテ人ヲマトヒ公義ノ役ヲツト
ムルナリ差役雇役又差衛前雇衛前
トモ云衛前ト云ハ百姓ノ公役ヲ勤允名ナ
リ雇役ノ法ヲ天下ニアカキ役戸ヨリ面ニ
錢ヲ出サシム免役錢助役錢等ノ名アリ
通考ニ云允當役人戸以等弟出錢名免
役錢其坊郭等ノ弟戸及成下單下女
戸寺觀呂官之家旧無色役而出錢者名
助役錢ト助役ト云ハ常ニニ役ヲユルサレタ

ル家ヨリ錢ヲ出シテ役ヲタスクルニヨリテ
是ヲ助役トイフナリ單下ハ下一人アルノ
女戸ハ女人家ニアリテ居ルモノ呂官ハ官
人ナリ坊等ハ常ニニ役ナケレバコノ時ニタ
テ錢ヲ出スナリ又免役寬剩錢ト云
コトアリ是ハ免役錢ノ上ヨリ取フナリ通
考ニ云又率其數増取二分以備水旱欠
漏虫増母得過二分謂之免役寬剩錢
ト荆云雇役ハ大縣是等ナルハ差雇人

利
害當時ノ諸官議論ニチカクナリノ畢竟
前公ノ法モ全ク民ヲ害ス國ヲ敗スノ術ニア
ラサレモ小人ノ信用冠テ君子ヲ擯棄シ
急ニ目前ノ利ヲ求メラレタリヨリテサ
ノ法制ニテ宋家敗立ノ本且トナル其後南
宋ノ世ニ及テ義役ト云フモノヨリテ
○續文献通考云元賑恤之名有二曰蠲
免者免其差稅即周官大司徒所謂薄征
者也曰賑恤者給以米粟即周官大司徒所

謂散利者也元ノ世復除ノ法是ニテ大畧
シルヘシ

○明朝蠲免ノテ洪武ノ初ヨリ其法アリ弘治
三年議准災傷應免糧艸事例全災者免
七分九分者免六分八分者免五分七分者免
四分六分者免三分五分者免二分四分者免
一分ト云々前代ノ法ニ合セテハイヨク詳
ナリ其餘コトナリ見ス

○行通ノ名者...

○ 旗表ノ事古ハ詳ナラス書終畢命端ニ旌
別淑一區表厥宅里トイヘリ蔡氏ノ註ニ表
異善人之居里如後世旌表同里之類ト
是旌表ノ濫觴トシルニ旌ト云ハ旌旗ヲ立
ツルナリ表トハ華表ノ類ヲ云ツルナリ
ステ人ハ善惡ニ因テ近退賞罰アル官ニ
アル人ヲ待ツノ道也旌表ハ士庶人ノ中ニ
テ行迹スル者ヲ褒美シテ其善ヲ

○ 旌表ノ事古ハ詳ナラス書終畢命端ニ旌
別淑一區表厥宅里トイヘリ蔡氏ノ註ニ表
異善人之居里如後世旌表同里之類ト
是旌表ノ濫觴トシルニ旌ト云ハ旌旗ヲ立
ツルナリ表トハ華表ノ類ヲ云ツルナリ
ステ人ハ善惡ニ因テ近退賞罰アル官ニ
アル人ヲ待ツノ道也旌表ハ士庶人ノ中ニ
テ行迹スル者ヲ褒美シテ其善ヲ

子ヲハシテ人ノ勸ミスルヲナリシト云フ
 ○後漢祖帝ノ時沛國ノ劉長卿カ妻張氏
 又死シテ後身ヲ割キ義ヲ守リテ嫁セス
 沛ノ相王吉高行ヲ奏聞スルニ因テ
 其門閭ヲアツハシテ行義桓娶トシテ
 衍義補ニ是ヲ列而後世族表ノ始トス其
 後隋ノ文帝ノ時田德懋ト云モノ孝行ナ
 ○此因テ聖書ヲ降シテ褒表スル也
 ○唐人時張公執ト云者九代同居セリ北齊隋

○唐ノ世代ノ其門ヲ旌表セシ高宗太山封
 禪祭ノ次手ニ車駕其家ニ行幸シ玉ノ
 口ケテ古今ニ名高キナリ
 ○唐六典都督刺史ノ下ニ若孝子順孫義
 夫節婦志行聞於鄉里者亦隨實申奏
 表其門閭若精誠感通則加優賞
 本朝之制 孝子節婦必有旌表
 ○本朝孝子節婦ヲ旌表セラルルヲ全ク唐ノ

○清和國レリ賦役令之凡孝子順孫義吏
節婦志行聞於國郡者申大政官奏聞
表其門閭同籍悉免課役有精誠感通
者加優賞ト同籍トハ一家ノコトナリ
○文武天皇大寶二年十月詔上自曾祖下
至玄孫奕世孝順者舉戸給復表旌門
閭以為義家為此後旌表ノ事國史ニ在
リ詳ニ舉ケス
○五代晉天福四年深列司印參軍李子自

倫ト云モノ六世同居スルニ因テ旌表セラレ
戸部奏聞シテ聽事步欄鳥頭雙闕等
アリテ鳥頭ニ柱端冒以瓦桶セント云勅
ニ云此故事也今式兼之ト云、是ニヨリテ
其外門ヲ高クシテ門ニ綽撰ヲ安シ左右
ニ臺ヲ建高サニ丈四尺横幅モ同前ニ
テ白出ヲヌリ四角ヲ赤クシテ不孝不義
ナルモノヲシテ行ヲ改メシメト云旌表之
法カクノコトニ是ヨリ後世未詳綽撰

ト云ハ華表ノ類ナリ明ノ時ニモ此名アリ
五代史李自倫傳ヲ考フ（シ）

○ 常平倉元本朝此倉之事
○ 荒政ノコト三代ヨリコレアリ周礼ニ荒政十
ニヨリ以テ萬民ヲ聚ル又礼記ノ王制ニ每
年ニ四分ノ一ヲアマシテ二十年ニ通シテ九
年ノ畜ヲナシテ凶年ニソナフ是蓋三代ノ
制法ナリ其後春秋戰國ニ及テ王政ヲト
ロ（ス）メレテ秦餞シテハ糶又晋ニ乞魯餞
シテ糶ヲ育ニモトム孟子ノ時ニナリテハ移
粟ノ事アリトイ（ヒ）イワユル五十歩百歩

○ 常平倉元本朝此倉之事
○ 荒政ノコト三代ヨリコレアリ周礼ニ荒政十
ニヨリ以テ萬民ヲ聚ル又礼記ノ王制ニ每
年ニ四分ノ一ヲアマシテ二十年ニ通シテ九
年ノ畜ヲナシテ凶年ニソナフ是蓋三代ノ
制法ナリ其後春秋戰國ニ及テ王政ヲト
ロ（ス）メレテ秦餞シテハ糶又晋ニ乞魯餞
シテ糶ヲ育ニモトム孟子ノ時ニナリテハ移
粟ノ事アリトイ（ヒ）イワユル五十歩百歩

ノコトニテ王政ト云ニタラヌ
○戦國魏ノ文侯ノ時李悝ト云モオアリ魏ノ
相ナリ曰糴甚貴傷人甚賤傷農ト人トハ
二商ヲ云是ニヨリテ平糴ノ法ヲハシテ豊
年凶年ヲ三段ニ分テ大熟ノ時ニ三分ヲ
買テ二分ヲユルニ中熟ニ二分ヲ買テ一分ヲ
買テ一分ヲユルニ時ハヤマサテ凶年ニ成リ
テハ小飢ニハ小熟ノ歛ヲ登シ中飢ニ中
熟ヲ登シ大飢ニ大熟ヲ登ス其法ヲ行

フテ魏ノ國遂ニ富强シ漢書食貨志
ニ詳ナリ

○漢ノ宣帝ノ時ニ數年豊年ニテ穀賤キ
一碩五錢農人利スクナシ耿壽昌カ計ニ
テ常平倉トオフヲハシメテル畢竟賤キ
トキニ高クカヒコミテ高キ時ニマスコウレ
ナリコレヲ漢書ニアリ

○後漢明帝ノ時ニ又常平倉ヲ作ル其後
時ニヨリテ舉行セリナリ北齊ノ時ニ是ヲ

富人倉ト云

富人ハ富民ナルヘシ唐人太宗ノ諱ヲ
ナケテ如此ニ書スト見ヘタリ

隋ノ文帝ノ時ニ京師ニ常平監ヲ置又

ニ部尚書長孫平カ奏ニヨリテ諸列ニ

義倉ヲ立シメ百姓軍人ヲ勸メ粟及麥

ヲ出シ當社ニ倉窖ヲコシテ是ヲ貯ヘ

不孰ノ時分ニ是ヲ以テ濟ニキハス後又詔

アリテ人戸ヲ三等ニワケ上戸ハ一石中戸ハ

七斗下戸ハ四斗ト定メコノ數ニ過サル様ニ

定メラル場帝ノ世ニテリテ國用不足ヲ

以テ社倉ノ粟ヲ取テ官費ニ充末年ハ

支給スルコトヲ得スナリ社倉義倉名ハ

カコレ氏同キコトナリ社ハ廟社ノ社ニ非ス

村在所ニテ人衆人クニ合テ誦ヲ結フコト

云廬上ノ白蓮社徐氏筆精月泉吟社

ト云ノ類ナリ唐書ニ百姓ハ牛ヲ買タ人モ

シスルヲ牛社ト云義ハ義田義漿ノ類ニテ

人ノ為ニ何ニテモ廣クスクフコトヲ義ト云

日本ニテ接待ト云コトナリ

○唐ノ武徳ノハシメ常平監ヲ廢ス暫ク
リテ天下ノ列縣ニ義倉ヲオキ凶年六
倉ヲ廢テ賑給ス高宗ノ時ニ常平倉ヲ
置ク中宗ノ時義倉盡クルニ近シ玄宗ノ
世ニ成リテ又取立ラル然レハ唐ノ時ニハ
義倉常平倉ニツトモニテ通典天寶
ノ時天下諸邑ノ米ヲ惣計シテ都テ九
千六百萬碩ノ内義倉六千三百萬余
碩常平倉四百六十五萬餘トアリニツ

トモアリト見ヘタリ天寶ノ後ヨリ邊疆
切多キニヨリテ費用甚クシ其後矣乱餓
饑ニテ西京藩籬ノ固メナク唐遂ニオ
トロフ

本朝之制古有屯倉有義倉公解田

○日本紀推古天皇十五年冬河内國作戸
刈池依網池亦每國置屯倉屯倉ノコト
日本紀處々ニ見ヘタリ點ニシマケト訓スマケ
家宅ノコトナリ公儀ノ御マシキト云義倉

○其ワケハ詳ナラサレモ此倉ノ字ニテ知
シ米粟ヲ多ク貯メテ此成ノ備トスル見
タリ令六見ス孝徳天皇問於臣曰云
其此倉猶如古代而置不ト故献此倉一
百八十所ト云、ソノカニ所々ニ此倉アリタ
ルハ是ニテ知シ

○義倉ノ令ニ詳ナリ曰凡一位以下及百姓
雜人等皆取戸粟以爲義倉云、注云親
王不在此例分富賑貧其情合義故曰義

倉也ト其法人戸ヲ上中下九等ニワリテ
上ニ戸ハ二石ヲ出シテ下ニ戸ハ一斗ヲ出ス
皆粟也粟ハモシヲ納ヲ云或ハ稻小麥大豆
ナハニ斗大麥ナレハ一斗五升小豆ナレハ一斗
ヲ出シテ粟一斗ニ準ルナリ本書ニ詳ナ
リ此粟一斗ノ字疑ハシ或ハ石ノ字カ
○公廩田ト云ハ解ハ官舎ノノニテ伎屋敷ナ
リ唐人時處ニ公廩田アリテ其所務ヲ
所ノ公用ニ給スルナリ一 本朝ニモ又コトア

リ此ハ常平倉トシケカワリタルトナリ
續日本紀ノ體ヲ考フニハ末進ヲ償フタメ
ニ設ケラレト見ヘタリ因テ此處ニノス又ソ
ノ文ヲ下ニ奉

○續日本紀桓武天皇延暦元年正月詔曰
公解田之設先補欠負次割國儲然後
作差處分又九年十月勅田公解之設
本為填補欠負未納陪國大小既立奉式
而今聞諸國司等雖有欠物猶得公解

理須依法科罪沒為官物云、欠負未納
ト云ハ今ノ所謂未進亦ノナリ此勅ノ趣ハ
公解田ハ本未進ノ時償フハステ國司ヒキ
○負子シモ亦是ヲ我物トスルヲ制セラレ、
ト見ヘタリ

○本朝中古以來三國、正統公解ト云フ
了リ辭言ハ山城國トハ正統公解各十五
萬東大和國トハ正統公解各二十萬東
近江國トハ正統三十八萬五千東公解四

十萬束ト諸國何レモ如坎ニシテ多ク行但
同カラス又所ニヨリテ救急料ト云モノア
リ其詳ナルハ源順傳名鈔ニ具サナリ未
○進ノ設ニシテハ其數甚多シ其法ヲ詳カ
ナルコトハ後世シリカメシ

○宋朝太祖ノ時義倉久シク廢スルニヨリ
テ又取立テ穀一石コトニ二斗ヲ稅シテ
凶年ニ備フ其後太宗ノ時折中倉惠
民倉ヲオカキ真宗ノ時ニ常平倉ヲオ

キ右者文獻通考仁宗ノ時ニ廣惠倉廣
見フタリ濟倉ヲオカク是ハ通典宋儒
議論ニ見フタリ何レモ凶年ノ時
飢民ヲ救賑スル備ナリ其後青苗ノ法
オユリテ常平ノ備コトナクツキタリ

○青苗之法ト云ハ神宗ノ世ニ王安石取立
タルコト也真宗ヨリ已前ニモ其名ハアレ
暫アツテ行ハレス通考ニ云陝西糴穀歲
預給青苗錢自天聖中罷不復給トア
リ

○神宗熙寧二年ニ三司條例司ノ請ヲ
リテ常平倉廣惠倉見在ノ米糶ヲ
以テ貴キニマスノ賣リ賤キニ高ク買
フテ見錢ヲ以テ陝西青苗錢ノ例ニナ
ラセ青苗ノ時分ニ百姓ノ拜借ヲ願フモ
ノニカシ粍ヲ其返納ノ法ハ借リウケル
錢ヲニツクシテ半ヲ夏料トシ半ヲ秋
料トシテ二分ノ息錢ヲ加テ公義ハカ
ラスナリ或スルニ本色ヲ納ルコトヲ願フモ

ノハユルス本色トハ米ノコトナリサテ凶年ニ
テハ限ヲ入テ熟年ニ是ヲ收ム是ヲ青
苗ノ法ト云王安石ノ建議スルトエロトリ
翰林學士范鎮ノ奏ニ三分ノ利ヲ加フト云知者勿
歎陽永叔ノ奏ニ二分ノ息ヲロフト云其前後少異
同用フ物ルナリ宋元通監ニ云出内
庫緡錢百万糶河北常平粟而常平
廣惠倉之法遂變為青苗矣王荊公
傳云青苗法者以常平糶本散与民戶
出息二分春散秋歛ト是等ニテ其法ノ

大槩シルルシ
○王安石之法ヲ行ハントテ蘓轍等ニ示ス
蘓轍由ラモテテ錢入民平虽良民不
免妄用及其納錢虽富民不免踰限
然レハ後ニ刑罰多ク列縣ノ事ワツラシ
カラント其他富弼司馬温公程明道歐
陽永叔韓琦范鎮等ノ諸賢或上書
シ或ハ書ヲ贈テソノ害ヲ述レ民用ヒス
遂ニ其法ヲ行フテ天下是ヲ困ム文獻通

考ニ其大綱ヲ挙テコレヲ論シテ曰青苗
錢所以爲人害者三日徵錢也取息也抑
配也ト抑配ト云フハ無理ニワリ付テカ
スヲナリハシメハ願フモノハヤリニ借スモリ
テ後ニ強テオシカシニシテ利ヲ取ラル
ニヨリテ害アルヲナリ其後司馬温公宰
相トナリテソノ法ヲ罷罷ラル其他ノコト詳
ニアクルニイヒアラス

○南宋ノ孝宗淳熙八年ニ朱子上書シ

テ社倉ノ法ヲ司倉ニ行フシト請フ是ハ就
道四年ノ比建列大ニ飢スルアリ朱子所
ノ府ニテ常平米六百石ヲ得テ刈如
愚ト云モノニ任マテ賑貸セシム其法ハ夏
ノ比粟ヲ倉ヨリ受取冬ニ成リテ二分
ノ息ヲ加テ償フ其ヨリ後年々ルシマ
又返納シテ十四年ヲ歴テ利米多ク
積レリ其内ニテ元數六百石ヲ府ハ
シ見管米三千百石アリ是ヲ社倉ト

シテ是ヨリ後又息ヲ收メヌダ、一石ニテ
耗米三升ヲ取コトナリ是ニ依テ一鄉
四五十里凶年ニアフト云(比ウレトナシ
ト其委キヲハ朱子文集ニ具ヒリ可考
○文献通考云淳熙八年十一月浙東提舉
朱熹云、時陸九渊在勅令局見之歎
曰社倉幾年矣有司不復掛墻壁所
以遠方無知者遂編入賑恤門其後嘉
定ノ比真德秀長沙ニテ是ヲ行フ其外

國ニモ是ヲ行フモノ有イツレモ米ヲ
法ヲ以テノリトシテ凶年飢歲人多ク是
ニヨル

○明ノ時荒政ノ備ハ預備倉ト云モナリ
會典ニ云預備倉常存三年元蓄以需
緩急ト其法洪武ノ初ヨリハニリテ天下
ノ縣マトニ預備倉四ヶ所ナリ公義ヨリ
米ヲ糶テ收貯ヘテ凶年ノソトトス各
其所ノ年高ケ爲實ナル百姓ヲ擇テアツ

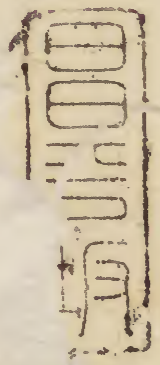
カラシム又百姓ニ穀ヲ納ルコト一千五百石
ナレハ勅ヲ請獎テ義民トス仍テ其家ノ
役ヲ免ヌ又三百石以上ナレハ石ヲ立テ名
ヲシルシ役ヲ元スナニ年其外或吏ニ補
シ或冠帶散官ヲ給フコトアリ世々ノ制
法具ニ會典ニノセリ

○嘉靖六年ニ古人平糶常平ノ法ニナ
ラヒテ春カシテ秋官ハカシテ其息ヲ
取ラレス同八年題准ニヨリテ各

按官義倉ヲ設立処ノ百姓二三十家ニ一
會ニシテ其内家遊殷實素^{ヒコト}有德行^{トシキ}者
一人ヲオシテカシラトス是ヲ社首ト云又
処事ハ公平ナルモ一人ヲ社正トス又簿^{ツケ}諸
簿ノモノ一人ヲ社副トス毎月朔十五日寄
合テ身代ノ差ヲ立テ上等ノ家ハ米四
斗ヲ出シ中等ハ二斗下等ハ一斗何レ
モ一斗コトニ耗^{カシ}米五合ヲ添テ倉^{クラ}ニ入
上等ノ家コレヲ主^ツり凶年ニ遇トキハ似

合ニコレヲ借上等ノ家ハ豊年ニ成リテサ
ニ用シテコレヲ返ス中下戸ハ其マ、取用テ
カハスニヲヨハス処ヨリ冊^{チヤウ}ヲ作りテ撫^ス按
官ニ送り年ニ度ツ、倉^{クラ}米ヲ査^シ算^ススモ
シ不足アルトキハ會首ヲ討シテ科代ニ一
年ノ米ヲイタサシム何レモ會典ニ出

常陸



Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document. The text is written vertically on the right page of the open book. The characters are somewhat faded and difficult to read precisely, but appear to be in a historical Japanese script.

Handwritten text on the left page of the open book. The text is very faint and mostly illegible due to fading and the texture of the aged paper. Some faint traces of characters are visible, particularly near the top and bottom edges.

